

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00163

研究課題名（和文）日本の篆刻に関する実証的研究 歴史・技法・鑑賞の研究から科学的解明を目指して

研究課題名（英文）An empirical study of Japanese seal carving: Aiming for scientific elucidation through research into its history, techniques, and appreciation

研究代表者

神野 雄二（Jinno, Yuji）

熊本大学・大学院人文社会科学研究部（文）・名誉教授

研究者番号：60330669

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日中における篆刻や印章、篆刻家や印譜の、広い視野に立った体系的な研究を目的とした。これまでの先行研究を踏まえつつ、その歴史・技法・鑑賞の実証的・科学的解明を行った。また、日本の近現代の篆刻家の研究を、実証的・総合的に行った。日本における篆刻や篆刻家の基礎的研究を、調査研究・文献研究・科学的研究の3種の方法により詳細に進めた。篆刻や印学の史的考察、篆刻家の事跡の調査・研究と作品研究を遂行し、論考として発表した。また、篆刻に関わる傍系の文人・芸術家の事跡の調査・研究と作品研究を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における印章や篆刻の研究、なかでも篆刻家や印譜の、広い視野に立った体系的な研究は、まだ殆んど行われていない状況であった。これまで同研究は、書誌学の一部、また書道史の篆刻研究で取扱われているにすぎなかった。まさに未開拓の学術領域である。考古学、古文書学、美学・美術史などに大きい成果をもたらすものと確信された。研究は、調査研究、文献研究、科学的研究の3種の方法により、詳細に進めた。また、日本の篆刻に関する実証的研究を、歴史・技法・鑑賞の研究から科学的解明を目指して進めた。その結果、研究成果の学術的意義や社会的意義は、高いものと確信する。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to conduct a systematic study of seal carving, seals, seal carvers, and seal engravings in Japan and China from a broad perspective. Based on previous research, we practically and scientifically elucidated the history, techniques, and appreciation of seal carving. We also conducted a practical and comprehensive study of modern and contemporary Japanese seal carvers. I fully made a fundamental study concerning Japanese seal engravings end engravers, I fully made a fundamental study concerning Japanese seal engravings end engravers, using three kinds of methods: research, literature review, and a scientific method, in which study, historical consideration on seals and research on engravers' lives and their works were made. In addition, in this study I also discussed the lives and works of writers and artists who were interested in seal engraving.

研究分野：書学書道史、篆刻

キーワード：篆刻 篆刻家 山田正平 山田寒山 書学書道史 印章 芸術 美学美術史

1. 研究開始当初の背景

日本における印章や篆刻の研究、なかでも篆刻家や印譜の、広い視野に立った体系的な研究は、まだまだ行われていない状況であった。印譜や印章、篆刻などの資料、文献そのものが殆んど集成されていないことから、この領域は未だ開拓されていないことが理解できよう。

これまで同研究は、書誌学の一部、また書道史の篆刻研究で取扱われているにすぎなかった。わが国の文化史上、印章や篆刻の占める位置は極めて大きい。まさに未開拓の学術領域であり、考古学、古文書学、美学・美術史などに大きい成果をもたらすものと確信された。

2. 研究の目的

「日本の印章・篆刻」の歴史的、芸術的、文化史的な解明を目的とする。日本の篆刻に関する実証的研究として、歴史・技法・鑑賞の研究から科学的解明を目指した。

本研究は、日本の美学・美術史研究での新しい基礎研究の一分野と位置づける事ができる。

さて、これまで日本の印人の研究、主として高芙蓉(1722～1784)研究、並びに彼を祖とする芙蓉派の一系譜と考えられる、源惟良、小俣蟻庵、福井端隱、山田寒山、山田正平等の事跡と作品分析、そして印学を研究する。また、わが国の印人伝における唯一の専著と言える中井敬所の『日本印人伝』をさまざまな文献・資料より拾遺し補訂することを課題とする。篆刻の専門家はもちろん、篆刻に関わる傍系の文人・芸術家の研究も併せて進める。以上の研究により、総括的には、日本の印学の体系化を目的とした。

3. 研究の方法

印章や篆刻、篆刻家に関する文献資料の調査、蒐集、整理、分析、研究を行った。博物館、美術館、図書館、各個人の収蔵家を訪問しての資料の撮影、聞き取りや、データーのファイル化が中心となった。

研究が訪問先などの関係で、当初計画どおりに進まない時は、訪問先の順番の入れ替えにより研究計画を遂行した。

研究は、下記の調査研究・文献研究・科学的研究の3種の方法により、詳細に進めた。

(1) 調査研究

本研究はまだ先行研究が少なく研究実績が乏しい。資料も纏まったものは少なく、東京国立博物館・東京都立中央図書館・大阪府立図書館・和泉市久保惣記念美術館などが、印譜や印章を収蔵するものの、未整理である。本研究では、関連の諸機関や個人の収蔵家を直接訪問し、資料を閲覧し、複写し1件1件蒐集した。新資料の発掘・提示ができた。

(2) 文献研究

本研究の文献的研究は、調査研究により蒐集した資料を分析し、体系化することである。また数少ない先行研究ではあるが、丁寧に拾い上げ再構成した。日本の印学・篆刻史の再構築である。

わが国の印人伝における唯一の専著と言える中井敬所の『日本印人伝』そして水田紀久先生の『続補日本印人伝』をさまざまな文献・資料より拾遺し補訂することが重要である。文人士大夫そして、篆刻の専門家はもちろん、篆刻に関わる傍系の文人・芸術家をも含めた研究を行った。

明治以降の新聞資料の研究を進めており、タイトル一覧はすでに発表した。これの分析を進めることにより、

新たな事実の確認ができた。

(3) 科学的研究

印章や篆刻の形象や線状を研究するため、座標を作り分析した。また構成部分を拡大し分析する。これにより、形象的要素を科学的に解明した。これは篆刻の造形性を解明するのに有効と考えられる。具体的な作品に当たり実証的に解析した。これはこれまで殆ど手がけられていない研究方法である。

4. 研究成果

印章や篆刻、篆刻家に関する文献資料の調査、蒐集、整理、分析、研究を行った。博物館、美術館、図書館、各個人の収蔵家を訪問しての資料の撮影、聞き取りや、データーのファイル化を進めた。

研究は、調査研究、文献研究、科学的研究の3種の方法により、詳細に進めた。その結果、本研究の深化と広がりが見られ、下記の研究成果が得られた。

新資料の発掘・提示ができた。

調査研究により蒐集した資料を分析し、歴史・技法・鑑賞の面から体系化ができた。

印章や篆刻の形象や線状を研究し、形象的要素を科学的に解明できた。これにより当該分野の研究を発展させることができた。

(1) 博士学位論文

学術博士学位論文『山田寒山・正平を中心とする篆刻家の実証的・総合的研究』（東京学芸大学、2021年3月）

(2) 単著

神野雄二、日本篆刻家の研究 山田寒山・正平を中心として 【改訂版】
(創想舎出版 全 394 頁 2020 年 3 月)

神野雄二、書写書道教育論考(創想舎出版 全 350 頁 2015 年 3 月)

神野雄二、神野大光の世界 書・篆刻作品集 創想舎出版 全 179 頁 2013 年 3 月)

神野雄二、高芙蓉の篆刻 (木耳社出版 全 396 頁 1988 年 6 月)

神野雄二、共著、高畑常信 篆刻の技法と鑑賞(明德出版社 7 79 頁 1984 年 5 月)

(3) 論文

- ・神野雄二、山田寒山・正平における篆刻の美と表現に関する研究()
- 『全九州大学書写書道教育研究』第 4 号(CD-ROM による発行, 一番目)
- 全九州大学書写書道教育学会 2020 年 3 月
- ・神野雄二「書道」、「篆刻」に関する適切な英語翻訳についての考察

国語国文研究と教育 第58号 pp.121～149 熊本大学教育学部国文学会 2020年1月

・神野雄二 高等学校芸術科書道における鑑賞に関する基礎的研究 山田寒山・山田正平の篆刻作品の鑑賞を通して 熊本大学教育実践研究 第36号 pp.98～112 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター 2019年2月

・神野雄二、日本篆刻家の研究 山田正平の実父木村竹香について 熊本大学研究紀要 第65号 pp.275～284 熊本大学教育学部 2018年12月

・神野雄二、日本篆刻家の研究 富岡鉄斎の篆刻と篆刻論

熊本大学教育学部紀要 第66号 pp.413～420 熊本大学教育学部 2017年12月

・神野雄二、日本篆刻家の研究 山田正平の用具・用材 九州地区国立大学教育系・文系研究論文集、第5巻第1号 九州地区国立大学間の連携事業に係る企画委員会リポジトリ部会 2016年九州地区国立大学間連携 教育系・文系論文編集委員会 ページ

No.16(リポジトリ保管) 2017年9月

・神野雄二、日本篆刻家の研究 山田寒山年譜稿、九州地区国立大学教育系・文系研究

論文集 第4巻第1・2合併号 九州地区国立大学間の連携事業に係る企画委員会リポジトリ部会 ページ

No.18(リポジトリ保管)2017年3月

・神野雄二、肥後・熊本学 書を中心として KUMAMOTO第14号60 66頁 NPO法人くまもと文化振興会 2016年3月

・神野雄二、日本印人研究 中川一政の篆刻と篆刻論 書学書道史研究 第26号

59 72頁 書学書道史学会 2015年10月

・神野雄二「山田正平における教育者の側面 東京学芸大学における篆書・篆刻講義を通して」(『第23回全日本書写書道教育研究会北海道大会研究集録』pp.160～165、全書研北海道大会事務局、1982年8月)

・神野雄二「王学仲先生のこと」(『芸術科書道研究紀要』pp.9～10、東京都高等学校書道教育研究会、1983年3月)

・神野雄二「高等学校芸術科書道教育における鑑賞指導に関する研究」(『国語国文研究と教育』第52号、pp.118～130、熊本大学教育学部国文学会、2014年2月28日)

・神野雄二「書写書道教科書に関する基礎的研究 京都府立総合資料館の取り組みと所蔵品を中心に」(『熊本大学教育学部紀要』第63号、pp.411～418、熊本大学教育学部、2014年12月)

・神野雄二「高等学校芸術科書道における鑑賞指導に関する実践的研究」(『熊本大学教育実践研究』第32号、pp.155～163、熊本大学教育学部附属教育実践総合センター、2015年2月)

・神野雄二「師恩」(8)(11)(12) 今井凌雪先生(1)(2)(3) (『永和』119号・126号・127号、永和社、2009年11月・2011年8月・10月)

・神野雄二「日本印人研究 日本印史とその特色」(『国語国文研究と教育』第四八号、151 167頁、熊本大学教育学部国文学会、2010年2月26日)

・神野雄二「日本印人研究 山田寒山の印学と『印章備正』」(『熊本大学教育学部紀要』第59号、112頁、熊本大学教育学部2010年12月3日)

・神野雄二「日本印人研究 山田正平をめぐる人々とその交友(続)」(『書法漢学研究』第10号、47 57頁、書法漢学研究会、2012年1月25日)

・神野雄二「山田正平研究 周辺の人々とその交友()」(『国語国文研究と教育』第五〇号、204 219頁、熊本大学教育学部国文学会、2012年2月8日)

・神野雄二「日本印人研究 山田正平の画と画論」(『熊本大学教育学部紀要』第61号、1 13頁、熊本大

学教育学部、2012年－2月3日)

・神野雄二「高等学校芸術科書道における鑑賞に関する基礎的研究 山田寒山・山田正平の篆刻作品の鑑賞を通して」(熊本大学教育実践研究 第36号 pp.98～112、熊本大学教育学部附属教育実践総合センター 2019年2月)

・神野雄二「日本篆刻家研究 山田寒山資料とその価値()」(『若木書法』21、pp.10～22、2022年2月)

・神野雄二「日本篆刻家研究 山田寒山資料とその価値()」(『若木書法』22、pp.66～76、2023年2月)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 神野雄二	4. 巻 22
2. 論文標題 日本篆刻家研究 山田寒山資料とその価値（ ）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 若木書法	6. 最初と最後の頁 60-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野雄二	4. 巻 21
2. 論文標題 日本篆刻家研究 山田寒山資料とその価値（ ）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 若木書法	6. 最初と最後の頁 1023
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野雄二	4. 巻 第58号
2. 論文標題 「書道」・「篆刻」に関する適切な英語翻訳についての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語国文研究と教育	6. 最初と最後の頁 121～149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神野雄二	4. 巻 第36号
2. 論文標題 高等学校芸術科書道における鑑賞に関する基礎的研究 山田寒山・山田正平の篆刻作品の鑑賞を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 98-122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野雄二	4. 巻 第67号
2. 論文標題 日本篆刻家の研究 山田正平の実父木村竹香について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 熊本大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 275-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神野雄二	4. 巻 第57号
2. 論文標題 「日本篆刻の歴史」の和文英訳 篆刻に関する和文英訳の課題と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語国文研究と教育	6. 最初と最後の頁 67 - 76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 神野雄二
2. 発表標題 日本篆刻家の研究 山田寒山・正平を中心としてー
3. 学会等名 東京学芸大学博士学位・公開論文発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 神野雄二
2. 発表標題 山田寒山・正平を中心とする篆刻家の実証的・総合的研究
3. 学会等名 東京学芸大学博士学位・公開論文発表会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1．著者名 神野雄二	4．発行年 2020年
2．出版社 創想舎	5．総ページ数 394
3．書名 『日本篆刻家の研究 山田寒山・正平を中心として 』【改訂版】	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会	開催年 null年
国際研究集会	開催年 null年

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------